

2017年10月25日、26日、30日

指導者 元木 加奈子

## 1 単元名 かたかな たんけんたい (伝国 (1) ウ (ア)、B (1) ウ、C (1) カ (2) ア)

## 2 単元について

## ○児童の実態と教科の内容

児童は保育所・幼稚園等で、「自分の名前を書きたい」「手紙で知らせたい」という思いをもとに、身近な大人や友達に助けってもらったり平仮名表で調べたりしながら文字を書き写してきた。小学校入学後には、「早く学習したい」という思いを胸に、筆順や正しい字形に気を付けて平仮名や漢字を書く学習をしてきた。幼児期に「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」が培われてきたことで、小学校でもその姿は生かされ、「書ける」「読める」「もっと書いたり読んだりしたい」という意欲につながってきた。しかし、小学校生活にも慣れ、学習が進むにつれ、「知りたいから学ぶ」という児童の思いが「この時間の学習だから学ぶ」という思いに変化してきているように感じられる。

そこで、本単元では、幼児期に培われた「知りたいから学ぶ」という意欲を生かした単元構成の工夫をした。児童は1学期に「学校探検」を経験しているため、校内での過ごし方や教室の場所等を知っており、自分で行動することができる。そのため、校内を探検して片仮名言語を探すと活動を導入にして、自分なりに考えながら活動し、学習を進めていくことができると考えられる。また、「これを知りたい」「これを知りたい」という思いをもって学習に意欲的に取り組めるように、自己決定する場を多く設定した。片仮名については、物語文「サラダでげんき」、説明文「いろいろなふね」の学習の中で読んだり書いたりして親しんでいる。本単元では、これまでの学習で学んでいない片仮名が登場したり、片仮名の特徴を知ったりする。「もっと読みたい」「もっと書きたい」という意欲を高めながら、片仮名を読んだり書いたりし、学習したことを活用する場面として、図書館で片仮名が表記されている絵本を読み、それを紹介する。こうした学習の中で、「知りたいから学ぶ」という思いをもとに、児童が片仮名を読んだり書いたりする喜びを味わっていくようにしたい。

## ○幼児教育の特性を生かした指導のポイント

幼児教育では「環境を通して行う教育」を大切に、幼児の主体性を何よりも大切にしている。幼児は「こうしたい」という思いの中で遊んだり生活したりしながら、直接的・具体的な体験を通して、様々な学びを可能にしている。このような学びを支えているのは、保育者の環境構成や援助である。保育者は、幼児が「やってみよう」と思えるように環境を構成し、幼児の思いを汲んで自己実現に向けて援助していく。小学校でも学習の導入期には学習環境の工夫に留意することが多いが、単元全体を通して児童の意欲を高め、学習の必要性を児童に感じさせながら指導していく意識は低くなっていくように感じられる。

そこで、本単元では、単元全体を通して児童が自己決定して「やってみよう」と思う支援を工夫するようにした。片仮名という文字の学習であるが、テキストやドリルありきの学習ではなく、学校にある片仮名言語を調べることから学習をスタートさせていく。学習する場所や学習形態、学習に携わる教職員にも変化を付け、「知りたいから学ぶ」という児童の意欲を高めていく。

保育者の援助は、指示が少なく、幼児と保育者が一緒になって遊びを進め、考えたり話し合ったりしながら遊んでいることが多い。話し合う際には、幼児の思いを汲もうとするために、尋ねたり相談したり、提案したり幼児の考えを生かしたりする保育者の声のかけが多くなっている。また、安心させたり、認めたり褒めたりする保育者の声のかけによって、幼児は安心し、自信をもって活動したり自分の意見を述べたりすることができている。その中で、保育計画はありながらも、幼児は「自分がした

いことをしている」と感じ、成長していくのである。小学校でも、児童が自分達の力で学んでいけるように、教師の指導の時間を少なくし、児童の思いを汲んだ声かけをすることによって、主体的に自己を発揮して学びに向かえるようになるのではないだろうか。本単元では、片仮名という新しい文字を教えるという学習指導ではなく、児童の知りたい気持ちを高め、調べたり気付いたりしたことをもとに話し合っで学んでいくようにしていく。こうした幼児教育の特性を生かした指導をすれば、児童は「みんなで考えるって楽しい」「もっと知りたい」と学ぶ楽しさを感じていけるのではないかと思われる。

なお、次のアイウの要素を、学習展開の幼児教育の特性を生かした指導のポイントに示す。

ア この単元で特に生かされる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（表示例：姿②）

この単元に特に生かされる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	接続期前期(5歳児後半)に見られた具体的な幼児の姿
②自立心	・自分から友達や保育者に声をかけて助けてもらいながら、やり遂げる。
③協同性	・同じ遊びをしている友達と、「こうしたい」という願いをもって遊びを工夫している。
④道徳性・規範意識の芽生え	・みんなのものを仲良く使うためにはどうしたらよいか、考えたり話し合ったりして使っている。
⑤社会生活との関わり	・見つけた虫や花の名前を、図鑑を使って調べたり、異年齢の友達に教えたりしている。
⑥思考力の芽生え	・自分が「こうしたい」と考えている遊びを試したり、新しいやり方を見つけて楽しんだりしている。
⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	・文字を書きたい、読みたいと思った時、友達や教師に聞いたり調べたりして書いたり読んだりしている。
⑨言葉による伝え合い	・友達や保育者に聞いてほしいことがあった時、自分なりの言葉で相手に伝えている。

イ 保育者の環境構成（表示例：環境A）

- A 遊びや生活に使うものは、何がどこにあるのか幼児に分かるようにしている。
- B 幼児が安心して使えるように、今までに使った経験のある道具を用意している。
- C 活動に見合う道具の種類や材料の量を準備している。
- D 幼児自らが環境の再構成ができるようにしている。
- E 担任だけでなく、様々な保育者が関わっている。
- F クラス全体で話し合う際には、ホワイトボードなどを使い視覚支援をしている。
- G 幼児が主体的に遊べるような時間・空間の使い方をする。

ウ 保育者の援助（表示例：援助1）

	パターン	援助の内容
1	認める・褒める	幼児の言動を認めたり、褒めたりする。その場合、結果だけではなく遊びの過程にも目を向けている。
2	尋ねる・相談する	幼児に何かを尋ねたり相談したりする。新しいことに取り組む時や、幼児の思考を促す時に用いられることが多い。
3	提案する	幼児の思いを捉えながら、保育者からも提案する。尋ねる・相談することと組み合わせて使われることが多い。
4	共感する	幼児の思いに保育者が共感する。幼児の気持ちを明らかにする場合や、幼児と思いを共有する時に使うことが多い。
5	安心させる	幼児に保育者が寄り添ったり、声をかけたりして、安心させる。
6	幼児の考えを生かす	幼児同士で認め合ったり共有したりするために、幼児のつぶやきを拾い、クラス全体に広める。保育者からの提案に生かすこともある。
7	助ける	幼児の思考が止まった時には、幼児理解に基づき、幼児の言葉を代弁する。
8	繰り返す	幼児の言葉を保育者が繰り返す。幼児から意見を引き出す時に使われることが多い。
9	一緒に遊ぶ	遊びが楽しくなるような雰囲気づくりをする。
10	見守る	幼児が試行錯誤している時は、保育者は遊びを見守るようにし、自分たちの力で遊びを進められるようにする。

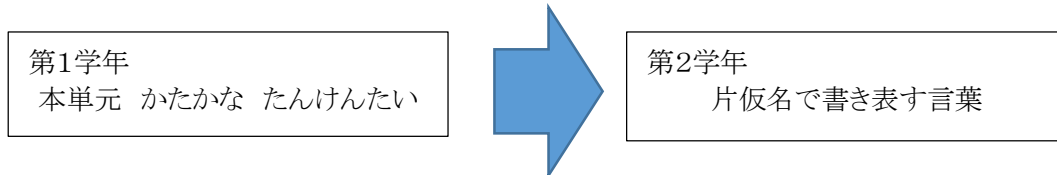
### 3 単元の目標

- ・片仮名に興味をもち、片仮名で書かれた言葉を進んで探したり、読んだり、書こうとしたりする。
- ・片仮名の表記を理解し、読み書きする。
- ・読書に興味をもち、楽しんで本を読む。
- ・片仮名で書かれた言葉を文の中で正しく使って書く。

### 4 単元の評価規準

- ・学校の中で、片仮名で書かれた言葉を進んで探したり書いたりし、見付けたことを話し合おうとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ・片仮名表を用いて片仮名の表記を理解し、身近な物の名前などを読んだり書いたりしている。  
(言語についての知識・理解・技能)
- ・読書に興味をもち、片仮名言葉が書かれている本を楽しんで読んでいる。  
(読む能力)
- ・お気に入りの絵本を紹介するために、片仮名で書かれた言葉を文の中で正しく使って書いている。  
(書く能力)

### 5 単元系列表



6 単元の指導計画(全5時間) ※ [ ] 内はめあて。

学習活動	児童の思考の流れ	支援	評価
<p>1 片仮名が学校内にあるか話し合い、片仮名を見付けに行く。(1時間)</p>	<p>学校に片仮名ってあるかな？</p> <p>片仮名を見付けにいこう。</p> <p>学校探検の時と同じだね。</p> <p>確か、廊下で見付けたよ。</p> <p>何て読むのかなあ？</p> <p>図書館や理科室にもあるかもね。</p> <p>みんなにも知らせたいな。</p> <p>やっぱりあった。</p>	<p>・これまでに学習して知っている片仮名言葉を見せ、児童が「知っている」「できそう」という思いをもてるようにする。</p> <p>・「片仮名を見付けたい」という意欲を高める。</p>	<p>・学校の中で、片仮名で書かれた言葉を進んで探したり書いたりし、見付けたことを話し合おうとしている。(国語への関心・意欲・態度)</p>
<p>2 見付けてきた片仮名を発表し、片仮名の表記について気付いたことを話し合う。(1時間)</p>	<p>見付けた片仮名について話し合おう。</p> <p>あのキャラの名前を書きたいな。</p> <p>図書館にいっぱいあったよ。</p> <p>「ポ」は「ぼ」って読むんだね。</p>	<p>・見付けた片仮名言葉を児童がカードに書くようにし、それを掲示することで、視覚的に情報をつかめるようにする。</p> <p>・児童から出された意見に、認める、生かす声かけをしていく。</p>	<p>・学校の中で、片仮名で書かれた言葉を進んで探したり書いたりし、見付けたことを話し合おうとしている。(国語への関心・意欲・態度)</p>
<p>3 片仮名の読み方や書き方を知る。(1時間)</p>	<p>片仮名を読んだり書いたりしよう。</p> <p>平仮名より、カクカク書いて書きやすいよ。</p> <p>「ヲ」って「を」なんだね。</p> <p>やったね！あのキャラクターの名前を書けるぞ。</p> <p>平仮名と片仮名は同じだけあるんだね。</p>	<p>・児童が書いた片仮名言葉を使うことで、読み書きへの関心・意欲を高める。</p> <p>・筆順についての基本的な約束を教え、片仮名表を使って自分で練習できるようにする。</p> <p>・練習している中で児童が気付いたことを生かし、より片仮名に親しめるようにする。</p>	<p>・片仮名表を用いて片仮名の表記を理解し、身近な物の名前などを読んだり書いたりしている。(言語についての知識・理解・技能)</p>
<p>4 図書室へ行き、絵本の中から片仮名を見付け、お気に入りの本を決める。(1時間)</p>	<p>絵本の中の片仮名を見付けよう。</p> <p>片仮名が読めると楽しいね。</p> <p>僕の好きな本にも片仮名がいっぱい。</p>	<p>・図書支援員等に協力を依頼し、クイズや読み聞かせ等で絵本の中の片仮名に親しむきっかけを作る。</p> <p>・片仮名表を使って、児童が自分で片仮名を読めるようにする。</p>	<p>・読書に興味をもち、片仮名言葉が書かれている本を楽しんで読んでいる。(読む能力)</p>
<p>5 お気に入りの絵本を紹介する。(1時間)</p>	<p>見付けた絵本の中で、お気に入りの絵本を紹介しよう。</p> <p>〇〇ちゃんが紹介してくれた本、読んでみたいな。</p> <p>片仮名をもっと書いたり読んだりしたいな。</p>	<p>・本単元の学習で児童が成長したこと、頑張っていたこと等、学習の過程に目を向けて評価をする。</p>	<p>・お気に入りの絵本を紹介するために、片仮名で書かれた言葉を文の中で正しく使って書いている。(書く能力)</p>

7-1 本時の指導(1・2/5時間)

(1) 本時の目標

・片仮名に関心を持ち、片仮名で書かれた言葉を探したり書いたりする。

(2) 本時の評価規準

・学校の中で、片仮名で書かれた言葉を進んで探したり書いたりし、見付けたことを話し合おうとしている。

(関心・意欲・態度)【行動観察・ワークシート・振り返りカード】

(3) 準備物 カード、拡大した片仮名表、小黒板、セロテープ、振り返りカード

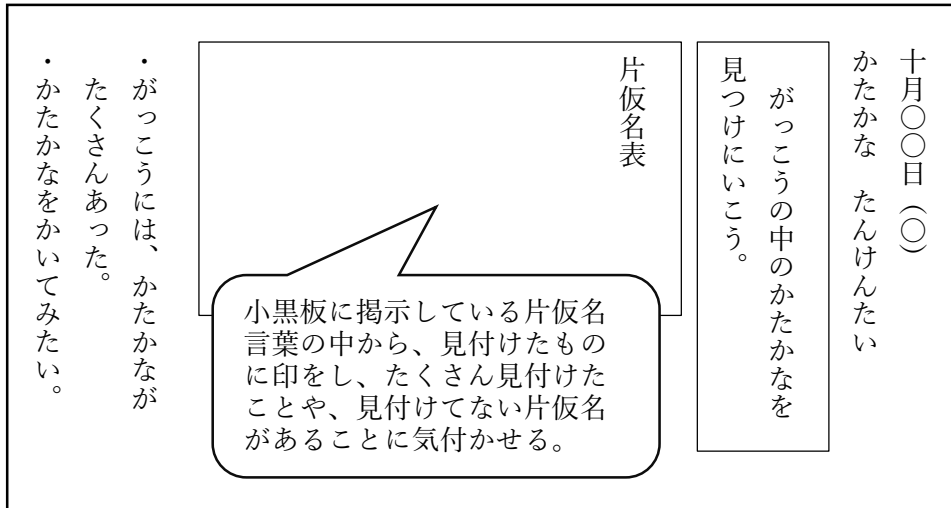
(4) 学習展開

学習活動 ・子どもの思考の流れ	教師の支援	幼児教育の特性を生かした指導の ポイント	評価
<p>1. 本時のめあてを確かめる。 (課題把握)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の中に片仮名ってあるよね。</li> <li>・廊下で見たよ。</li> <li>・探しに行きたいな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>がっこうの中の かたかなを 見つけにいこう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている片仮名言葉を見せ、「できそう」「知っている」という気持ちを高める。</li> <li>・片仮名を探す関心・意欲を高め、片仮名を探す必要性を児童が感じるために、「学校の中に片仮名ってあるかな?」と問いかける。</li> <li>・学校探検の活動で考えた探検の仕方を使い、自分達でできる気持ちを高める。</li> </ul>	<p><b>ポイント1</b> 姿②③ 援助 f</p> <p>課題との出合わせ方を工夫し、課題解決に向けての意欲を高める。</p>	
<p>2. ペアで探検する。(自力解決)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱり廊下にあった。</li> <li>・「ポ」で何て読むの?</li> <li>・片仮名は何文字あるのかな?</li> </ul> <p>3. 見付けた片仮名について発表する。 (話し合い)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館にたくさん片仮名があったよ。</li> <li>・「ポ」は、「ぼ」って読むんだね。</li> <li>・みんないっぱい見付けたね。</li> <li>・あのキャラクターの名前、書けるかな?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこへ行って見付けるのか自分で決めるようにする。</li> <li>・ペアで活動することによって、友達と協力し合って解決できるようにする。</li> <li>・自分達で見付ける活動を通して、「伝えたい」という気持ちを高める。</li> <li>・見付けてきた片仮名を、児童がカードに書き、それを掲示することで、満足感や充実感をもてるようにする。</li> <li>・児童の意見を認めたり、その意見を生かして新しい発見につなげたりする。</li> </ul>	<p><b>ポイント2</b> 姿②⑧ 環境 g</p> <p>自己決定できる活動を設ける。</p> <p><b>ポイント3</b> 姿②、援助 6</p> <p>人と関わる活動を通して、「自立心」を生かし、伸び伸びと学習に向かえるようにする。</p> <p><b>ポイント4</b> 姿③、環境 F</p> <p>視覚支援をすることで、話し合う手掛かりを作る。</p> <p><b>ポイント5</b> 姿⑨、援助 1・6</p> <p>「認める」「生かす」声かけをすることで、「言葉による伝え合い」の姿を生かして話し合いができるようにする。</p>	<p>関学校の中で、片仮名で書かれた言葉を進んで探したり書いたりし、見付けたことを話し合おうとしている。【行動観察・ワークシート・振り返りカード】</p>

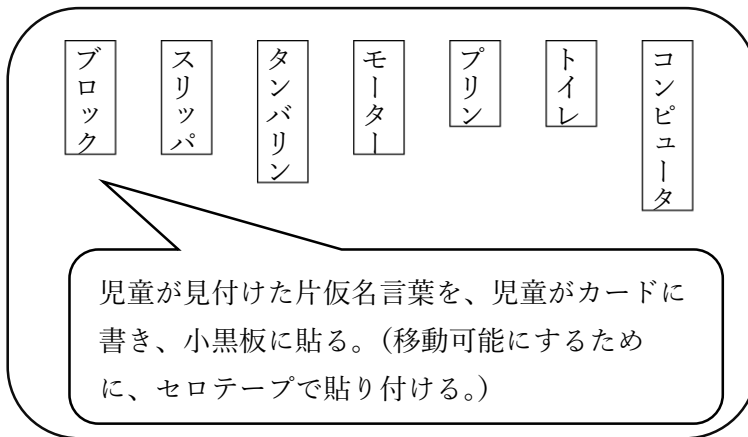
<p>4. 振り返りカードを書き、探検の感想を伝え合う。(まとめ・振り返り)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん見付けられて嬉しかったよ。</li> <li>・新しい字が読めたよ。</li> <li>・今度は書いて見たいな。</li> <li>・もっと読みたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導しながら、振り返りカードの記述を評価し、感想を言いたい気持ちを高める。</li> <li>・児童の「～したい」という思いを次時以降の学習につなげていく。</li> </ul>	<p><b>ポイント6</b> 姿②⑨、援助1・6 一人一人の学習の過程に目を向けて褒める。</p> <p><b>ポイント7</b> 姿①、援助6 児童から出てきた「～したい」という思いを生かして、次の学習への期待感を高める。</p>	
--	---	---	--

(5) 板書計画

①黒板

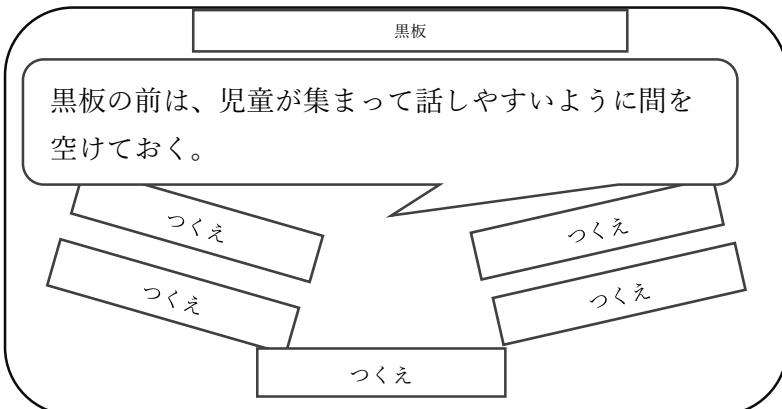


②小黒板



(6) 環境

①教室



②学校全体⇒

- 1階
- ・廊下には掲示物がたくさんあり、片仮名を見付けやすい。
  - ・保健室や職員室では、教職員に助けを求められることができる。
- 2階
- ・特別教室がたくさんあり、片仮名を見付けやすい。
  - ・学校探検の経験を生かして、他の学年が授業中でも活動できるように配慮する。

7-2 本時の指導(3/5時間)

(1) 本時の目標

- ・片仮名の表記を理解し、読み書きする。

(2) 本時の評価規準

- ・片仮名表を用いて片仮名の表記を理解し、身近な物の名前などを读んだり書いたりしている。

(言語についての知識・理解・技能)【行動観察・ワークシート・ノート・振り返りカード】

(3) 準備物 片仮名表(児童用2枚、掲示用)、前時に使用した小黒板、振り返りカード

(4) 学習展開

学習活動 ・子どもの思考の流れ	教師の支援	幼児教育の特性を生かした指導のポイント	評価
<p>1. 本時のめあてを確かめる。 (課題把握)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ分からない片仮名があったね。</li> <li>・キャラクターや動物の名前を片仮名で書きたいな。</li> <li>・どうやって書いたらいいのかな？</li> <li>・保育所の時は、あいうえお表を見て書いていたね。</li> <li>・片仮名表があれば读んだり書いたりできるかも。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>かたかなを よんだり かいたりしよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に児童から出された「～したい」という思いを生かし、本時のねらいを確かめるようにする。</li> <li>・これまでの学習を想起させるために、前時の学習で使用した片仮名カードを見せる。</li> <li>・保育所・幼稚園等で平仮名を書いていた時のことを尋ね、片仮名を读んだり書いたりするための解決法を児童が考えられるようにする。</li> </ul>	<p><b>ポイント1</b> 姿②③ 援助2・3・6</p> <p>保育所・幼稚園等での経験を生かし、課題解決の方法を考えさせる。⇒「自立心」を生かして、片仮名の読み書きの学習につなげていく。</p>	
<p>2. 片仮名表を使って、まだ分からない片仮名の読み方や書き方を知る。 (自力解決)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どれから書こうかな？</li> <li>・この字とこの字を書いたら、「イヌ」になるんだね。</li> <li>・もっと長い言葉も書きたいな。</li> </ul> <p>3. 気付いたことを発表して、全員で片仮名の読み方を確認する。(話し合い)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「<sup>レ</sup>」や「<sup>ロ</sup>」を付けるのは、平仮名と似ているね。</li> <li>・カクカクってというのは、真っ直ぐの線のことじゃない？</li> <li>・パンダって書けたよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの字から書いてもいいこと、片仮名表を使ってもいいこと、教師や友達に助けを求めてもいいこと等を伝え、「やってみよう」という気持ちを高める。</li> <li>・机間指導をし、認めたり褒めたりする声かけをしていく。</li> <li>・児童のつぶやきを拾い、次の活動に生かす。</li> <li>・2の学習活動で拾った児童のつぶやきを学級に広め、全員の学びにつなげる。</li> <li>・意見が出にくい場合には、児童のつぶやきを生かして「〇〇さんがカクカクって言ってたけど、どういうことだと思う？」等話し合いの視点を提案する。</li> </ul>	<p><b>ポイント2</b> 姿②、援助6 自己決定できる活動を設ける。</p> <p><b>ポイント3</b> 姿②③⑥⑧、環境B 援助1・4・6・7</p> <p>人と関わる活動を通して、幼児期に育まれた「自立心」を生かし、伸び伸びと学習に向かえるようにする。</p> <p><b>ポイント4</b> 姿③⑤⑧⑨ 援助2・3・6</p> <p>児童のつぶやきを生かして、つなげたり、提案したりすることで、「言葉による伝え合い」の姿を伸ばして話し合いができるようにする。</p>	<p>【言】片仮名表を用いて片仮名の表記を理解し、身近な物の名前などを读んだり書いたりしている。</p> <p>【行動観察・ワークシート・ノート・振り返りカード】</p>
<p>4. 振り返りカードを書き、学習の感想を伝え合う。(まとめ・振り返り)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導しながら、振り返りカードの記述を評価し、感想を言</li> </ul>	<p><b>ポイント5</b> 姿②⑨、援助1・6</p>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・片仮名を書けて嬉しかったよ。</li> <li>・もっといろんな片仮名の言葉を探したいな。</li> <li>・もっと書いたり、読んだりしたいな。</li> </ul>	<p>いたい気持ちを高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の「～したい」という思いを次時以降の学習につなげていく。</li> </ul>	<p>一人一人の学習の過程に目を向けて褒める。</p> <p><b>ポイント6</b>  <b>姿①、援助6</b>  児童から出てきた「～したい」という思いを生かして、次の学習への期待感を高める。</p>	
--	--	---	--

(5) 板書計画

① 黒板

- ・もつとかたかなをかきたい。
- ・かたかなは、おもしろい。

片仮名表

- ・やがある。
- ・ひらがなとおなじところがある。
- ・カクカクしている。
- ・チョコ
- ・パンダ

十月〇〇日(〇)

かたかな たんけんたい

かたかなをよんだりかいたりしよう。

② 小黒板

ブ  
ロ  
ク

ス  
リ  
ッ  
パ

タ  
ン  
バ  
リ  
ン

モ  
ー  
タ  
ー

プ  
リ  
ン

ト  
イ  
レ

コ  
ン  
ピ  
ユ  
ー  
タ

(6) 環境  
教室

黒板

つくえ

つくえ

つくえ

つくえ

つくえ

つくえは二人一組になるように配置し、困ったときに隣の友達に助けを求めやすいようにする。

片仮名表は、一人一枚用意し、いつでも児童が自分で使えるようにしておく。また、黒板にも拡大した片仮名表を掲示し、みんなで確認できるようにしておく。



7-3 本時の指導(4/5時間)

(1) 本時の目標

- ・読書に興味をもち、楽しんで本を読む。

(2) 本時の評価規準

- ・読書に興味をもち、片仮名言葉が書かれている本を楽しんで読んでいる。

(読む能力)【行動観察・ワークシート・振り返りカード】

(3) 準備物 ワークシート、片仮名表(児童用)、ホワイトボード、マーカー、クリーナー

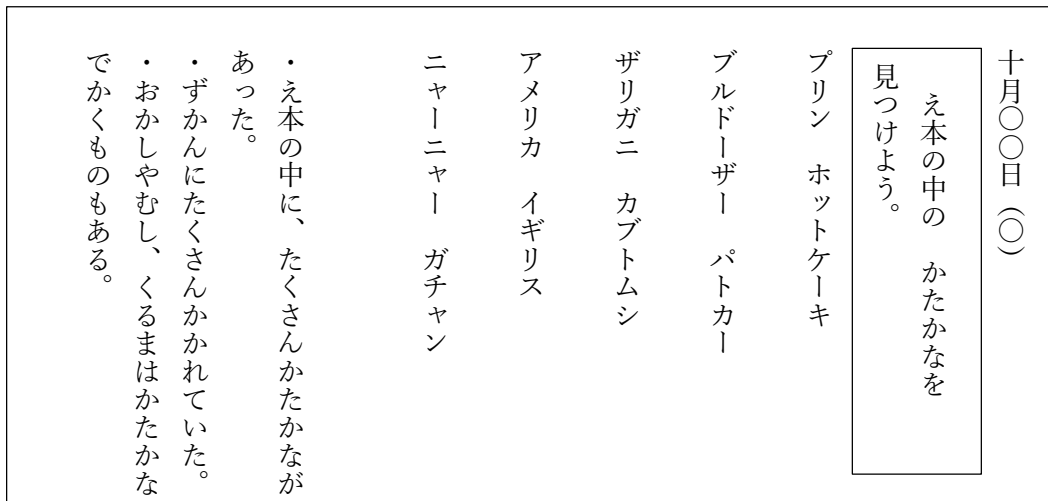
(4) 学習展開

学習活動 ・子どもの思考の流れ	教師の支援	幼児教育の特性を生かした指導 のポイント	評価
<p>1. 本時のめあてを確かめる。 (課題把握)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片仮名の本が図書館にいっぱいあったね。</li> <li>・どんな本があったかな？</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">え本の中の かたかなを見つけよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図書館に片仮名がたくさんあった」という児童の意見をもとに、図書館に移動しておく。</li> <li>・1時間目で訪れた図書館での「かたかなたんけん」の様子を写真で見せ、児童の意欲を高める。</li> </ul>	<p><b>ポイント1</b> 姿②③、環境F 写真を使って視覚支援し、「行ってみたい」「探したい」という意欲を高める。</p>	
<p>2. 図書支援員に片仮名の本を読み聞かせしてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あ、「ネズミ」とか「ジュース」とか、片仮名だ。</li> <li>・読めるね。</li> <li>・もっといろいろありそう。</li> </ul> <p>3. 片仮名が書かれた本を選んで読み、見付けた片仮名をワークシートに書く。(自力解決)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あの本に出てくる動物の名前も片仮名だね。</li> <li>・お話の中にもたくさん片仮名があるよ。</li> <li>・「プリン」「ホットケーキ」「ブルドーザー」「パトカー」「ザリガニ」「カブトムシ」…お菓子や車、虫は片仮名で書くことが多いんだね。</li> </ul> <p>4. 気付いたことを発表する。(話し合い)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな本の中に片仮名がいっぱい出ていたよ。</li> <li>・図鑑にもたくさんあったよ。</li> <li>・読めるとおもしろいね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書支援員等に協力を依頼し、クイズや読み聞かせ等で絵本の中の片仮名に親しむきっかけを作る。</li> <li>・片仮名表を使って、児童が自分で片仮名を読めるようにする。</li> <li>・机間指導をし、認めたり褒めたりする声かけをしていく。</li> <li>・児童のつぶやきを拾い、次の活動に生かす。</li> <li>・2の学習活動で拾った児童のつぶやきを学級に広め、全員の学びにつなげる。</li> <li>・児童が見付けた片仮名言葉を板書し、どんな言葉に使われているか気付けるようにする。</li> </ul>	<p><b>ポイント2</b> 姿⑤、環境B・E 担任以外の教職員と一緒に学習したり、図書資料を使ったりして、「社会生活との関わり」を生かし、主体的に自己を発揮できるようにする。</p> <p><b>ポイント3</b> 姿②、援助6 自己決定できる活動を設ける。</p> <p><b>ポイント4</b> 姿②④⑥⑧⑨ 援助3・6・7・9 教師も一緒に絵本を開きながら、片仮名や絵本への興味が広がるようにする。</p> <p><b>ポイント5</b> 姿⑨、援助1・6 児童のつぶやきを生かして、つなげたり、提案したりすることで、話し合いができるようにする。</p>	<p>読書に興味をもち、片仮名言葉が書かれている本を楽しんで読んでいる。【行動観察・ワークシート・振り返りカード】</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>片仮名はどんな言葉にも使っているんじゃないだね。</li> </ul>			
<p>5. 振り返りカードを書き、学習の感想を伝え合う。(まとめ・振り返り)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のお気に入りの本を紹介したいな。</li> <li>どの本に片仮名がいっぱい書かれているのか知りたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導しながら、振り返りカードの記述を評価し、感想を言いたい気持ちを高める。</li> <li>児童の「～したい」という思いを次時以降の学習につなげていく。</li> </ul>	<p><b>ポイント5</b> 姿②③、援助1・6 一人一人の学習の過程に目を向けて褒める。</p> <p><b>ポイント6</b> 姿①、援助6 児童から出てきた「～したい」という思いを生かして、次の学習への期待感を高める。</p>	

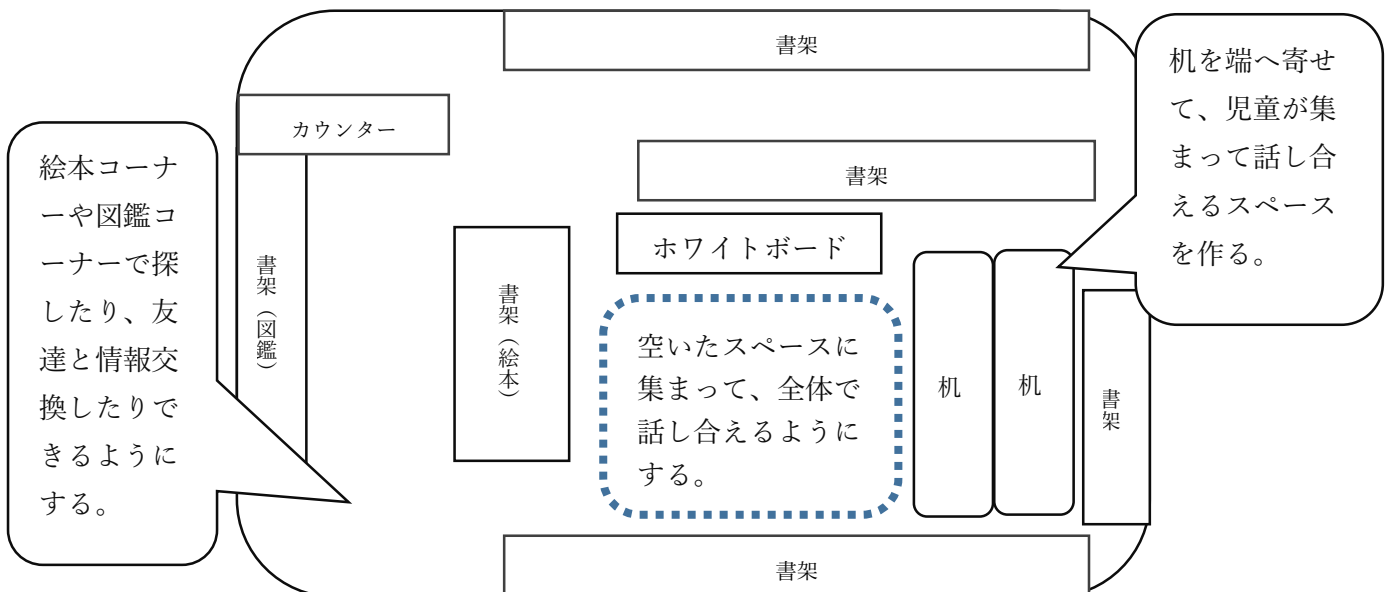
(5) 板書計画

ホワイトボード



(6) 環境

図書室



7-4 本時の指導(5/5時間)

(1) 本時の目標

- ・片仮名で書かれた言葉を文の中で正しく使って書く。

(2) 本時の評価規準

- ・お気に入りの絵本を紹介するために、片仮名で書かれた言葉を文の中で正しく使って書いている。

(書く能力)【行動観察・ワークシート・振り返りカード】

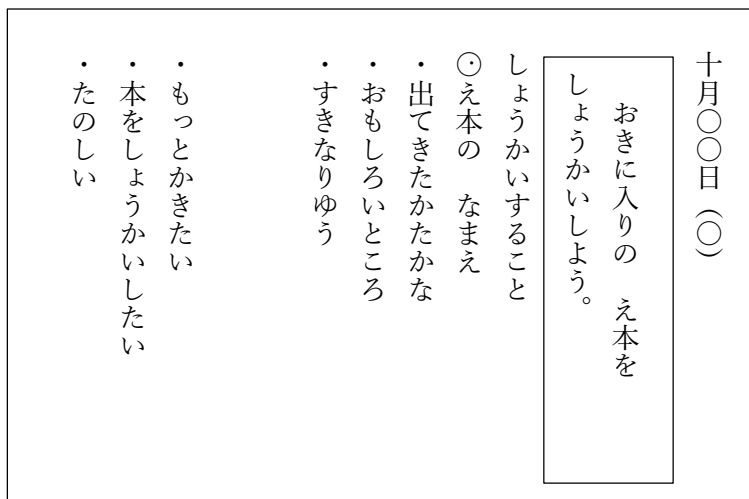
(3) 準備物 ワークシート、片仮名表(児童用)、ホワイトボード、マーカー、クリーナー

(4) 学習展開

学習活動 ・子どもの思考の流れ	教師の支援	幼児教育の特性を生かした指導 のポイント	評価
<p>1本時のめあてを確かめる。 (課題把握)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなどんな本を見つけたのかな？</li> <li>・私のお気に入りは何…。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>お気に入りの え本を しょうかい しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に児童から出された「～したい」という思いを生かし、本時のねらいを確かめるようにする。</li> <li>・「どの本がお気に入り？」等と質問して、本を紹介したい気持ちを高める。</li> </ul>	<p><b>ポイント1</b> 姿②、援助2・6</p> <p>自己決定できる活動を設け、課題解決に向けての意欲を高める。</p>	
<p>2. 紹介の文をワークシートに書く。 (自力解決)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本の題名をみんなに教えたいな。</li> <li>・本に出てきた片仮名も紹介しよう！</li> <li>・おもしろいところも紹介しよう！</li> </ul> <p>3. お気に入りの絵本を紹介する。 (話し合い)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、「ものすごく大きなプリンの上で」という絵本が好きです。</li> <li>・ものすごく大きなプリンやホットケーキ、アイスクリームの上で遊んでいるのが楽しかったです。</li> <li>・おもしろそうだね。読んでみたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「どんなことを紹介したらいいかな？」等と尋ね、児童の考えを引き出し、自分達で書く内容を決めるようにする。</li> <li>・片仮名表を使って、児童が自分で片仮名を読めるようにする。</li> <li>・全員の顔が見えるように円になって座り、発表しやすい雰囲気を作る。</li> <li>・発表順や質問など、児童がしたいと思ったことを児童に任せる。</li> </ul>	<p><b>ポイント2</b> 姿②⑥⑨ 環境B 援助1・2・6</p> <p>どんなことを紹介するか考える中で、「こんな風に紹介したい」という思いを高めていく。</p> <p><b>ポイント3</b> 姿②③⑧⑨ 環境F・G 援助1・2・4・6</p> <p>「言葉による伝え合い」の姿を生かして、楽しかった思いを伝えたり、質問して楽しんだりできるようにしていく。</p>	<p>書片仮名で書かれた言葉を文の中で正しく使って書いている。【行動観察・ワークシート・振り返りカード】</p>
<p>4. 振り返りカードを書き、探検の感想を伝え合う。(まとめ・振り返り)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと片仮名を書きたいな。</li> <li>・保育所の友達に、この本を紹介してあげたいな。</li> <li>・片仮名って楽しいね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導をしながら、振り返りカードの記述を評価し、感想を言いたい気持ちを高める。</li> </ul>	<p><b>ポイント4</b> 姿②⑨、援助1・6</p> <p>一人一人の学習の過程に目を向けて褒める。</p>	

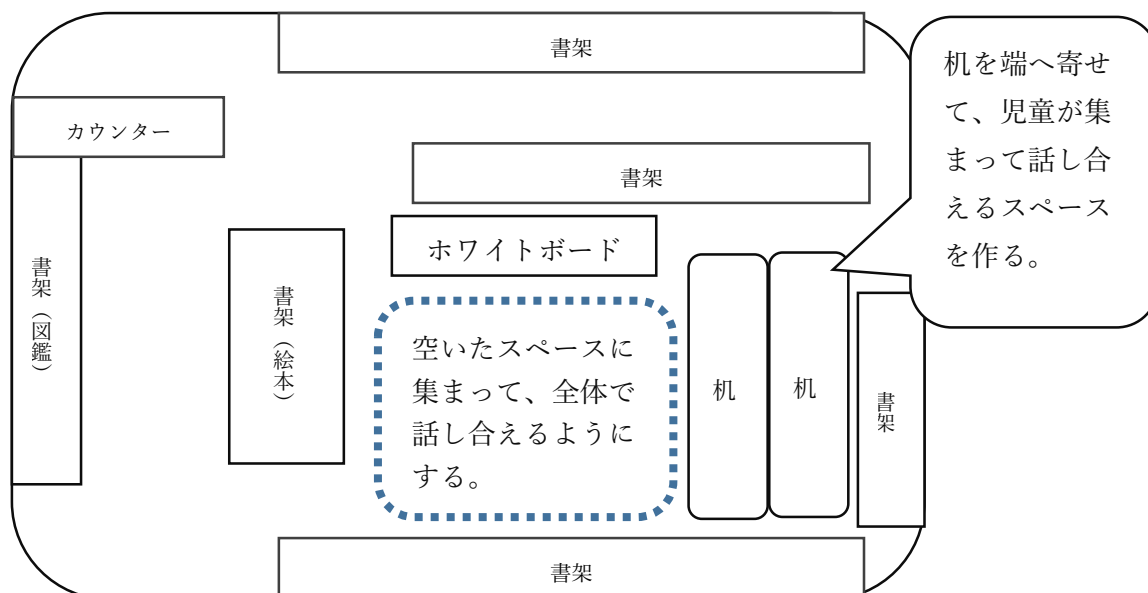
(5) 板書計画

ホワイトボード



(6) 環境

図書室



# かたかな たんけんたい

一ねん なまえ（

）

☆え本の中から見つけた かたかなを かきましよう。

え本のなまえ

見つけた かたかな

<p>え本のなまえ</p>	<p>見つけた かたかな</p>
<p>（Blank area for writing the book name）</p>	<p>（Blank area for writing the katakana）</p>



かたかな たんけんたい

ーねん なまえ )

☆おきに入りのえ本を しょうかいしましょう。

え本のなまえ )

)

Handwriting practice area with a solid top line and four dashed lines below it, enclosed in a rectangular box.



)



# ふりかえりカード

月 日

1ねん なまえ\_\_\_\_\_

1. きょうのべんきょうは、やってみたいとおもえましたか。

おもう      すこしおもう      あまりおもわない      おもわない



2. ともだちと いけんを出しあって かんがえることができましたか。

おもう      すこしおもう      あまりおもわない      おもわない



3. じぶんのきもちや かんがえを ともだちやクラスの人に はなすことが  
できましたか。

おもう      すこしおもう      あまりおもわない      おもわない



4. きょうのがくしゅうのめあてを たっせいできましたか。

おもう      すこしおもう      あまりおもわない      おもわない



5. じぶんや ともだちが がんばったことや、きょうのべんきょうで  
わかったこと、もっとしりたいことなど、せんせいにおしえてね。
